

# 港北の消防

第54号  
平成28年4月1日  
編集  
横浜市港北消防団  
(港北消防署内)

## 就任にあたって

横浜市港北消防団長 飯田 孝彦

平成二十八年四月一日より、港北消防団長の任命を受けて就任致しました飯田でございます。平素は消防団活動に多大なるご理解、ご協力を頂きまして誠にありがとうございます。本業消防団員活動は自らの仕事をもちながら災害発生時には地元の地元の利をなかし、消防署との連携を持ちながら活動し、地域に貢献することが重要な役割です。



更なる発展を目指すことをお誓いし、就任の挨拶とさせていただきます。

## 広域災害の備えを託して

前団長 伊藤 武夫

消防団員の皆様、私の四十四年間の消防団活動にご指導ご協力を頂き誠にありがとうございます。また、私を支えて頂いた武蔵消防署長始め職員の皆様には、重ねてお礼申し上げます。振り返ってみますと、昭和四十七年に父と入れ替わりに消防団に入団し、当時二十七歳でした。入団の年にポンプ操法大会に出場し、以後十六年間で四回の出場を果たし、成績は健闘虚しく万五位でした。



北消防団が公設消防との共同で連携して広域災害等に備える活躍に期待をします。

## 平成二十七年幹部教育指揮幹部科「現場指揮課程」を受講して

第一分団 第二班 部長 村田 庸明

昨年十月三十一日から二日間、消防訓練センターにおいて消防団員幹部教育指揮幹部科・基本の訓練科を受講しました。活動・救助救命活動などを受講しました。首都圏直下型地震・集中豪雨などによる大規模災害に対応した指揮行動は、初めての経験で水害活動・津波を想定した避難誘導などは、情報収集・災害本部との連絡・避難者及び活動者の安全管理・避難者とのコミュニケーション・活動の中止などの指示に躊躇や遅れなど作業指示等に対する課題がでてきました。

## 篠原西町公園における消防隊との連携放水訓練への参加

第二分団 第五班 班長 玉川 真

十二月五日の土曜日、初冬の清々しい陽気となりました。この日は篠原西町公園で篠原消防隊との連携放水訓練が実施されました。篠原西町公園は水道のすぐ隣に面しており、災害時も消火栓が使用できる地域の消防活動拠点の役割を担っています。また、公園の一部は丘の上にも続いており、木々に囲まれ豊かな自然環境が広がっています。



訓練の充実をほかり地域住民との連携で、災害を小さく収めるようにしたいものです。

## 消防団退団にあたり

前本部部长 小泉 正

この度、平成二十八年三月三十一日を以って定年退団することになりました。昭和四十九年に入団以来、四十年以上消防団員として活動してまいりました。入団当初は隙間風が吹き抜ける話所で、年末の二十五日から大晦日まで、夕刻より翌朝まで詰めての夜警でした。区の消防操法大会には何回も出場し、指揮者から三番員まで全役を担いました。その操法大会での最も心に残る思い出は、緊張の一番目の出場での事でした。当時は、朝から



強風が吹いていて、火点が倒れないように止めてある火点に放水した為、一向に倒れずじまい。最後に再度操法をやり直し二回操法披露を行ったことがありました。



恒例、年末年始消防特別警備 第四分団副分団長 小嶋 清司

平成二十七年十二月二十日より、いよいよ年末年始消防特別警備が始まりました。恒例ではありますが、この時期消防団員としては一番緊張し、又自覚を持つ時期でもありません。そして十二月二十八日には、横山港北区长、武蔵港北消防署長、伊藤港北消防団長の方々により、四分団に対し激励巡視があり、お言葉を頂きました。その後、地域に戻り管内巡回警備に従事しました。

めどこの言葉が溢れています。その頃、消防団員は新年の挨拶も早々に警備に入ります。仕事はお焚きあげの炎を見つめ、舞い上がる火の粉の行方を目で追ひ、安全確認をする事です。でも、心の中では余裕があります。それは事前に境内の周りの枯れ葉等燃えやすい物に散水し、十分に湿らせてあり、準備は万全だからです。こういった事で地域の安全に少しでも貢献出来ればと思います。



## 横浜市消防団広報推進協議会に参加

第五分団 分団長 森 茂

平成二十六年四月から、横浜市消防団広報推進協議会に参加しました。参加後、初めての会議は防災センターの会議室で行われ、他の参加者と顔合わせ、以前からの協議会が行われていた様子で、港北からは初めての参加者でした。各団からは一人だけの参加者もあれば、二人、三人と多人数で参加する団も見受けられました。先ず役員の見任ですが前年からの留任で決まりました。議題は団員のデザインの考案、街頭での配布品の選定でした。リーフレットは大幅にデザインを変更することで二年がかりとなり、この度の配布となりました。二十七年年度の団員は以前からのデザインから選定していましたが、二十八年度は新たな案案に決まりました。配布品は携帯トイレバックでしたが今年度から、エマーゼンシートに代わる予定です。

消防団のコーナーが割り当てられ、メインステージでは十五分枠の中で団活動のPRを行います。また、女性消防団員の技術発表会や隔年で戸塚の訓練センターで行われる技術訓練会の支援や広報活動も行います。また、会議の際には各団が機関誌やポスターなどを持ち寄り情報交換も行われます。役に立ちそうな情報は積極的に取り込みたいと思いますが、港北のカラーを変えずに取り込み、団員増強に繋がりたいと考えます。



消防団の指導を頂き、防災機器の取扱、簡易トイレ及びテントの組み立てを体験しました。消防団の皆様は、防災備蓄庫の点検、消防車の夜間パトロール、酷暑の中の夏季訓練、厳冬下の年末年始特別警戒、消防出初式、更に昼夜を問わず緊急出動など、地域防災の要として活動頂いております。これからも地域住民と一体となつて防災活動にお力添えを願っています。

### 地域防災の一年を振り返って

新吉田あすなろ連合町内会長 関 治美

新年度が始まり五月になると、町内会では新役員の基で「地域防災拠点訓練」が行われます。事前に行つた「拠点防災会議」には高田消防出張所、消防団、区役所、新田中学校、地域の防災部長が出席し、防災・減災活動の在り方を議論し、自助・共助の大切さを共有して、速やかに行動に移せるように取り組んでおります。実践訓練では、まず防災拠点を開設し、避難者の受け入れに必要な体制を整えることから始まります。生活空間を確保する区割り、下水道直結型のトイレの設置、水道設備の立ち上げ、炊き出し、そして女性用の更衣室、授乳室の設置等、女性スペースの確保も重要であると思います。拠点訓練が終ると新田中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏が訓練の疲れを癒し、心を和ませてくれます。

ファイナレは消防団によるポンプ操作が行われ、規律のある演技が披露されました。地域の皆様も大変頼もしく感じられたことと思います。そして九月一日の「防災の日」には新田中学校の生徒さん、教職員、拠点部長が動員され、ミニ防災訓練が行われます。消防



消防団と消防隊の連携訓練  
第七分団 第二班 班長 小山 正則

十一月二十九日(日)、新羽大熊農業専用区域で、消防団と消防隊の連携訓練を行いました。訓練内容は、消防団が建物火災現場に先着し放水している所へ、消防隊が到着した状況を想定し、連携して放水活動を行うというものです。A想定・消火栓を利用する状況、B想定・初期消火栓を利用する状況、二つの想定で訓練しました。

第二班は、A想定で訓練を行いました。積載車で火災現場に到着すると、ホースを二本延長し放水を開始します。そこへ消防隊が到着して、指揮者から下命を受けます。消防団は放水を止め、ホースを消防隊の右側の中継口に接続し、ホースを延長します。消防隊は左側からホースを延長し、消防団と消防隊の二本の放水ラインから放水し、A想定で訓練は終了しました。

消防隊と連携する訓練を行うのは初めてで、大変有意義な訓練を体験することが出来ました。参加した団員も、実際の火災現場で緊張感を持ちながら、着実に消火活動を行う意識を持つことが出来たのではないかと思います。

今回は第一回目の訓練でしたので、スムーズにいかない所もありましたが、今後も訓練を重ねていき、想定される大規模災害が起きても、冷静沈着に活動できるよう、対応能力の向上に努めていきたいと思います。



### 女性消防団員活動事例発表会

第八分団 第三班 班長 前島 美幸

横浜市内二十の女性消防団による活動事例発表会が、平成二十八年二月七日(日)保土ヶ谷公会堂にて開催されました。

戸塚消防団男性フットボール部のファンファレで始まり、発表は各団十分の持ち時間の中で港北消防団は「消防団員の確保に向けた取り組み」をテーマに、団員募集のプロモーションビデオ作成・歩道橋への横断幕PR・港北消防団員協力の店などの取り組みを、加藤副分団長が発表しました。



その他、演劇・歌唱・演技など工夫を凝らした発表があり、男性にも負けない活動に改めて女性のパワーを感じさせられました。

### 平成二十八年港北区消防出初式開催

編集委員長 加藤 修

平成二十八年一月九日(土)に、港北区消防出初式が絶好の好天の中で開催され、大勢の区民の皆様が御来場を頂き、盛況の中に実施することが出来ました。港北消防団員の力

強い分列行進や機敏な総合演技で港北区の防災を新たな区民の前にお誓いすることが出来ました。



### 港北消防団 団員募集プロモーションビデオ

港北消防団オリジナルプロモーションビデオのご紹介です。このビデオは港北区吉日にある慶應義塾大学シネマ研究会の皆様にご協力頂き、親しみのある新しいタッチの団員募集のプロモーションビデオが完成しました。



※港北消防団ホームページより

### 港北区内の火災情報

平成28年3月31日現在

年別	平成28年	平成27年	増△減△
火災発生状況	22	22	0
建物	8	11	△3
林野	0	0	0
車	1	0	1
船舶	0	0	0
航空	0	0	0
その他	13	11	2
焼損床面積	102	1,008	△906
死者	1	1	0
死者	1	1	0
放火自殺	0	0	0
負傷者	4	3	1
主な出火原因			
1 放火	10	7	3
2 マッチ・ライター	1	0	1
3 火あそび	1	1	0
4 ストープ	1	1	0
5 こんろ	1	2	△1

### 新・救助資機材配置!

平成二十五年十二月に制定された消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律をもとに消防団の強化が進められています。その中で、今年度新しく各分団に配置された救助資機材を写真にて紹介致します。



①AED(自動体外式除細動器)・日本光電製  
心臓が痙攣(けいれん)し、血液を流すポンプ機能を失った状態(心室細動)になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。

- ④油圧切断機
  - ・ホルマトロ製 要救助者が障害物に挟まれ、また、閉じこめられている場合に障害物を排除するため、持ち上げ、広げ、切断等を行う資機材です。
- ②エンジンカッター
  - ・ハスパーナー製 円盤型切断刃を高速回転させて鉄、コンクリート等を切断して災害現場における各種障害を排除する資機材です。
- ③可搬式ウインチ
  - ・カツヤマキカイ製 強い力で物を動力なしで引っぱることが出来る道具です。交通事故等で挟まれ救助事業に車体及びドアを引っ張る際に使用します。
- ⑤油圧ジャッキ
  - ・ダイキ製 倒壊物や重量物を押し広げる際、狭い空間にウエッジ(スプレッダー)を差込み、持ち上げたり、広げたり、こじったり等の作業が行える資機材です。

### 新任責任職員紹介

- 庶務課 長 堤 康史
- 消防団担当課 長 梅 大助
- 消防指導担当課 長 小 林 邦彦
- 警防第一課 長 井 上 拓也
- 網島消防出張所 長 比 留 間 内 信
- 日吉消防出張所 長 大 河 原 信
- 篠原消防出張所 長 竹 原 信
- 高田消防出張所 長 柴 田 大
- 新羽消防出張所 長 新 羽 治

### 新港北消防団幹部紹介

- 団長 飯 田 孝彦
- 副団長 加 藤 修
- 第一分団 長 山 口 繁
- 第二分団 長 宮 田 久
- 第三分団 長 石 川 賢
- 第四分団 長 鈴 木 基
- 第五分団 長 長 瀬 孝
- 第六分団 長 西 山 秀
- 第七分団 長 内 山 幸
- 第八分団 長 草 山 実
- 本部 長 羽 田 信
- 本部 長 田 勝
- 本部 長 斎 藤 博
- 本部 長 嶋 村 信
- 本部 長 森 下 信
- 本部 長 川 下 信
- 本部 長 米 山 政
- 本部 長 加 藤 修
- 本部 長 草 山 政
- 本部 長 加 藤 修

永年港北消防団で功績のありました嶋村尚美相談役におかれましては平成28年3月31日(逝去されました)(享年88歳)ここに謹んで哀悼の意を表します。

### 編集後記

各町内会、自治会、消防署、消防団の皆様には、日頃からの地域防災に對しての取組に多数のご投稿を頂き誠にありがとうございます。私達編集委員は、各分団からそれぞれ一名ずつ選出され、皆様の防災活動におけるご意見、体験を基に、地域防災、消防団活動の現況を、紙面をもつてお知らせしております。今後もより良い「港北の消防」の編集、発行に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご協力の程よろしくお願い致します。

### 第十八期編集委員

- 本部 加藤 修 (編集委員長)
- 第一分団 岩田 文夫
- 第二分団 砂田 俊彦
- 第三分団 齋藤 信之
- 第四分団 小嶋 清司
- 第五分団 森 茂
- 第六分団 川下 省二
- 第七分団 米山 政勝
- 第八分団 草山 恵子